

教育研究審議会議事録

| | | |
|---|--|---|
| 開催日時 及び場所 | 令和5年5月25日(木) 午後2時00分から午後3時12分まで 特別会議室 Web (ZOOM) 会議同時実施 | |
| 出欠状況 | 出席:26名 欠席:0名 | 出席:尾池議長、今井委員、酒井敏委員、富沢委員、渡邊委員、 小林委員、長澤委員、花岡委員、酒井公夫委員、 石川委員、伊吹委員、剣持委員、六井委員、山下委員、 眞鍋委員、三浦委員、澤田委員、竹下委員、篁委員、 永倉委員、轟木委員、仲井委員、小川委員、細川委員、 林委員、藤森委員 |
| <p>1 審議事項</p> <p>(1) ボアジチ大学 (トルコ) との大学間交流協定の更新について</p> <p>(2) 静岡県立大学学則の一部改正について (国際関係学部)</p> <p>(3) 薬学部「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー) 及び「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー) の改正について</p> <p>(4) 客員教授の称号付与の推薦について (薬学部1件)</p> <p>(5) 客員教授の称号付与の推薦について (食品栄養環境科学研究所1件)</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 令和5年度 学生数等について</p> <p style="margin-left: 20px;">① 静岡県立大学</p> <p style="margin-left: 20px;">② 静岡県立大学短期大学部</p> <p>(2) 2025年度入学者選抜 経営情報学部 一般選抜前期日程 個別学力検査等「科目名等」への追記対応について</p> <p>(3) 令和4年度 TOEIC L&R IP テストの結果等について</p> <p>3 学部・研究科等における取組報告について</p> <p style="margin-left: 20px;">① 静岡県立大学学生部</p> <p style="margin-left: 20px;">② 静岡県立大学短期大学部学生部</p> <p>4 その他</p> <p>(1) 学外委員からの意見</p> | | |

・前回の教育研究審議会において2件の質問があり、関係者に確認した内容(回答)を議長が報告した。

・前回議事録(案)の確認

令和5年4月の教育研究審議会議事録(案)について、承認された。

1 審議事項

(1) ボアジチ大学(トルコ)との大学間交流協定の更新について(説明者:富沢委員)

ボアジチ大学とは平成18年11月に大学間交流協定を締結し、今回で3回目の協定更新を迎える。

平成21年度に開始した交換留学では交流規模を順次拡大するとともに、住居の無償提供及び両校の共同申請によるトルコ政府奨学金の獲得など、経済面の支援充実も図ってきた。また、教員間の交流では両校教員が相互訪問し、特別講義や学术交流等に取り組んでいる。平成29年にはボアジチ大学の学長及び名誉教授等を本学に招聘し、協定締結10周年記念行事を開催した。

同大学とは学生及び教員の双方で積極的な交流を継続しており、今般先方との協

議の結果、両大学とも大学間交流協定について更新の意思があるため、本件協定を更新したい。

協定事項の内容について基本的な変更はないが、従来から両大学間で教員への宿舍提供などを実施しているという現状を条文に反映させる。

審議事項（１）について提案のとおり承認された。

（２）静岡県立大学学則の一部改正について（国際関係学部）（説明者：剣持委員）

改正内容は、授業科目の新設、授業科目の廃止、授業科目名の変更という３点である。

国際関係学部ではプログラム制という制度を取っており、その中の「共生社会」プログラムの教育内容を充実させるため、少数者が抱える社会的課題や人権問題を問う科目を新たに創設する。本科目は本学の教育目標及び国際関係学科のディプロマ・ポリシーにも合致しており、マイノリティ問題解決の実践を包括的に学ぶことができると考えている。

内容が重なる部分が多い科目については授業科目を廃止する。

また、廃止する授業科目に伴い、授業科目名を変更する。

審議事項（２）について提案のとおり承認された。

（３）薬学部「学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）の改正について（説明者：石川委員）

薬学部質保証委員会において昨年度末に３ポリシーの見直しを行い、薬学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの一部改正をすることとした。

ディプロマ・ポリシーは、「最先端の医療知識と技能を有している」という内容について、「医療知識」に限らないことから、「医療」という文言を削除する。それに伴い、「コミュニケーション能力」に関する記載を別項目に移動する。

カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーに定められた各項目に対応させ、より具体的な教育課程内容を含めた形とした。その他、評価方法についても各項目にそれぞれ加えた。

審議事項（３）について提案のとおり承認された。

（４）客員教授の称号付与の推薦について（薬学部１件）（説明者：石川委員）

薬学部における客員教授の称号付与について、本学共同研究教員、共同研究テーマ、称号付与の期間、主な経歴及び業績に関して説明した。

審議事項（４）について提案のとおり承認された。

（５）客員教授の称号付与の推薦について（食品栄養環境科学研究所１件）

（説明者：三浦委員）

食品栄養環境科学研究所における客員教授の称号付与について、本学共同研究教員、共同研究テーマ、称号付与の期間、主な経歴及び業績に関して説明した。

審議事項（５）について提案のとおり承認された。

2 報告事項

(1) 令和5年度 学生数等について

① 静岡県立大学（説明者：細川委員）

学生数は例年並みとなっており、各学部の所定員に対する増減は記載のとおり。全体の所定員に対しては108%の学生数となっている。

<意見>

- ・看護学部の収容定員について誤りはないか。（委員）

<回答>

- ・編入学による影響があることから、誤りではない。（説明者、委員）

② 静岡県立大学短期大学部（説明者：林委員）

特徴として、歯科衛生学科の1年生の在籍者数が多くなっているが、要因としては、総合型選抜において志願者数が多かったということ、及び新規導入した一般選抜において新たに面接を課した結果、入学辞退率が低くなり、歩留まりが大きくなったことで定員を上回った。

また、介護福祉士専攻については定員を下回っており、志願者確保のために「受験生確保緊急対策プロジェクト」を立ち上げ、取り組んでいる。

(2) 2025年度入学者選抜 経営情報学部 一般選抜前期日程 個別学力検査等「科目名等」への追記対応について（説明者：六井委員）

経営情報学部の入学者選抜における、一般選抜前期日程 個別学力検査について、昨年8月4日付けで、2025年度入学者選抜の実施教科、科目及び配点等を公表しており、数学に関しては「数学Ⅲ」及び「数学Ⅱ, B, C」の選択問題としたことで、文系、理系ともに受験できる対応とした。

しかし「数学B」及び「数学C」において、文系と理系で履修範囲が異なるという指摘を受け、科目名等に「文系型」、「理系型」それぞれの出題範囲を明記する必要があると判断し、追記の対応を行う。

(3) 令和4年度 TOEIC L&R IPテストの結果等について（説明者：藤森委員）

本件は1年生の5学部及び国際関係学部2年生の結果である。

リスニングについては495点満点で全ての学部で300点を上回る結果であった。

リーディングについては多くの学部で250点を上回ってきており、トータルでは各学部550点を超えた。1年生は5学部平均が591点と、非常に高いスコアであった。全国のTOEIC公開テスト平均点580点に到達してきているということで、学生の努力が結果として出ている。国際関係学部2年生は平均点が650点弱と非常に高い平均点であった。

1年生の5学部に関して、100名を超える学生が700点以上という高スコアを出している一方で、800点以上を対象とした全学共通科目を開講しているが、履修者が10名未満である点について、学生に対するインセンティブとして何が必要なのかという見極めが今後必要になると考える。

昨年より運用を開始した「英語科目評価表」について、650点以上を取ると「優」「秀」という評価表になっているが、こちらを今年度から730点とし、社会一般でも通用するグローバルなレベルに引き上げたので、結果に注視していきたい。

各学部IPテスト後は、400点未満及びコロナ罹患等で未受験だった学生を対象に、言語コミュニケーションセンター主催のIPテストを実施した。依然400点未満の学

生に対しては、サポートを続けていきたいと考えている。

最後に学習サポートについて、相談者数は少ない一方、教材を活用して自習していた学生が多かったということで、今後は曜日指定の学習サポートをアポイントメント制にし、個別対応をさらに進めていきたいと思う。

3 学部・研究科等における取組報告について

① 静岡県立大学学生部（説明者：細川委員）

学生部は学生室、入試室、キャリア支援室の3室で構成されている。

学生室は、学習環境の整備、教務の円滑化を目的とし、様々な業務を担当している。この3年間は特にコロナの影響を受けたが、令和4年度学位授与式、令和5年度入学式は、4年ぶりに保護者の出席及び来賓の方々の臨席を可として実施した。

授業について、昨年度はほぼ対面授業となったが、教室の収容人数の関係で一部オンラインの授業もあった。しかし、令和5年度は教室の収容定員の制限を撤廃して授業を実施している。

学生の課外活動については3年間にわたって新型コロナウイルスの影響を受けていたが、昨年度は規模を縮小して「剣祭」を開催することができた。本年度も引き続き安全な形での学内開催ができるように努めていく。

修学支援対策としては、静岡県の「大学生等学びの継続支援事業」を活用し、静岡県立大学学生支援企画「学びのための緊急給付金」を実施した。また本件とは別に、おおぞら基金を原資とした本学独自の給付型特別奨学金も実施した。

その他、はばたき棟地下食堂のリニューアルオープンや学生から広く意見を求めることを目的とした、学長の似顔絵を付けた「かずもん」という意見箱を設置し、学長からの回答をボードに貼り公開する取組も実施している。

入試室について、大学入学共通テストでは多くの教職員に御協力をいただきながら運営している。今年度についても御協力をお願いする。

入試問題作問については、作問部会、点検部会において、学内、学外の先生方の協力をいただいている。昨年度は入試ミスが指摘されており、本年はミスのゼロを目指し、チェック体制を整えていきたい。

入試広報ではオープンキャンパスがメインとなっており、この3年間は学内実施しておらず、バーチャルオープンキャンパスという形で行った。昨年度はZoomを使った双方向型企画を実施し、多くの高校生に参加していただいた。今年度は加えて対面型も実施し、並行して行っていく検討をしている。

キャリア支援室では1年生対し将来のキャリアについて考えるよう、一昨年度に「キャリア形成概論Ⅰ,Ⅱ」の科目を開講した。さらに、昨年度からは集中講義として、全学共通科目「ライティング基礎」及び「ライティング実践」を開講し、キャリア教育の充実を図っている。

コロナ期間も個別相談を対面及びオンラインの形で実施し、その結果、学生からは企業のオンライン面接等にもスムーズに対応できたという報告があった。

② 静岡県立大学短期大学部学生部（説明者：林委員）

学生支援について、昨年度は新型コロナウイルス感染症の状況に注意しつつ、3年ぶりに「新入生歓迎スポーツ大会」や「橘花祭」を開催した。短期大学部は御存知のとおり2年、3年で卒業してしまうため、前例が全く分からないという状況で取り組むこととなったが、学生の熱心な取組により何とか形にすることができた。今年度は前年度の反省を活かし、さらに充実した内容にしていきたいと考えている。

教務については授業や試験に係る全般的な業務を行っており、授業評価アンケート

トの実施、結果のフィードバックを行うなど、授業改善に向けた支援を行っている。

国家試験の合格率の項目については、歯科衛生学科で歯科衛生士、社会福祉学科介護福祉専攻で介護福祉士とそれぞれ国家試験があるが、どちらも合格率は 100% となっている。

入学者選抜では、令和 5 年度選抜から歯科衛生学科及びこども学科において、総合型選抜、学校推薦型選抜の年内入試と呼ばれる募集人員を増やしたことが大きな変更点となっている。さらに歯科衛生学科では一般選抜において、新たに面接試験を導入した。18 歳人口の減少、四大志向に伴う短大離れといった状況があるため、それに応じた変更を行った。

一方で、社会福祉学科介護福祉専攻では志願者の減少が続いており、短期大学部では「受験生確保緊急対策プロジェクト」を立ち上げ、定員割れ対策に取り組んでいる。

その他、オープンキャンパスや説明会などの管理システム「OCANs(オーキャンズ)」を新たに導入したことで、説明会やオープンキャンパスの申込の際に、登録されたメールアドレスに短期大学部からのメール配信やイベント告知、アンケートなどを実施することが可能となった。

キャリア支援については各種ガイダンスや個別相談を充実させ、学生及び卒業生に向けた様々な取組を行っており、毎年進路が決定した卒業生からは「役に立った」との声をいただいている。

最後に令和 5 年度の重点事項として、昨年度は新型コロナウイルスの感染症によって停滞してしまった学生の諸活動を徐々に再開させることができたと考えており、今年度は学生間でそのノウハウを継承できるよう支援していきたいと考えている。また、定員割れ対策が急務となっているため、まずは入試広報を充実させ、短期大学部の魅力発信に努めていきたいと考えている。

4 その他

(1) 学外委員からの意見

① 花岡委員

私が所属する研究所は大学院のみのため、留学生の比率が上がっており、今は 50% から 60% 程度の留学生が占めている。

貴学の留学生の比率についてどの程度で、どのように変遷しているかという統計があれば教えていただきたい。

<回答>

・今現在留学生が約 80 人であり、全体の割合としてはかなり少ないということになるかと思う。一方で、博士課程に占める留学生の割合は増えている印象がある。なお、コロナの影響はほぼ受けていないが、この 2、3 年間で 1 年間においてオンライン試験で入学したが、本学に来れない学生はいた。(委員)

・経年変化についても回答したいところだが、この 3 年は異常な状態が続いたため経年変化が議論できるデータがなく、上手く回答が出ないが、元の状態に戻ってきているということはあるかもしれない。また、外国人という意味では「留学生」は「国費留学生」のほか、日本人と同じように受験して入学される外国人もいるということで、どのように統計を取るかによってもデータは変わらと思う。(議長)

・関連した話として、本学では国際学生寮を設置して楽しい国際交流の場として有効に活用しており、質的に高いという面もある。今後は議論を深めていきたいと思う。(議長)

② 酒井公夫委員

企業の5月期は決算を固める時期であり、各企業の決算発表が最近は続いている。世の中の決算状況を見ていると「最高益」という言葉が並んでおり、昨年度の後半からは人流も回復し、当社で問題となっていた半導体不足による車の供給もある程度増えてきた。一方で景気が良くなると同時に人手不足が明らかになってきており、各企業は体力以上の昇給を行い、会社の利益よりも人を確保する動きをしていることから、今年は過去にないレベルの昇給が行われているという状況である。

本日は駐車場運営をされている企業の方と話をしたが、「需要を把握する」ということは非常に難しいということを感じた。その企業はどのように「需要を把握している」というと、周辺の駐車場の出入りの画像をAI分析しているということであった。今までの不動産開発は「駅から何分」という情報が1つのデータであり、駅から遠い、中心市街地から何分、といった情報が最初に出てくるが、今までの経験からは出てこないデータがあるということで、いかに需要を正しく把握することが難しいかということが分かる。

弊社ではデータを購入し、「どこを経由し、どこに行った」というデータを確認でき、なかなか面白いデータが取れるため、需要を把握するべくデータを活用していきたい。大学としても「需要を正しく把握する研究」をしていただければ、高く売れるのではないかと思うので、是非とも御検討いただけたらと思う。

駐車場運営の中で、運賃精算はナンバープレートを読み取るということを行っているが、現在は様々な種類のナンバープレートが出回っている。例えば、東京オリンピックのナンバープレートがあるが、購入する中でどのような方の需要が多かったかという、黄色いナンバープレートを付けるのが嫌だという軽自動車に乗っている方が白ナンバーに見えるということで、購入する方が多くいた。その後もラグビーワールドカップのナンバープレート、最近では関西万博のナンバープレートも出ていると思う。これらのナンバープレートは普通のナンバープレートよりも高い。購入場所は静岡県の自動車会議所で販売しており、ディーラーを通して購入が可能であることから、高いナンバープレートを買っていただけると事業の運営も順調にいくので、御希望の際はお申し付けいただきたい。

<意見>

・決算状況が非常に良いということでしたので、大学に寄附をしていただけるとありがたい。業界の業績が良いとのことで、給料が上がるということに関してはありがたいことではあるが、大学としては今年度の予算を組む上で人件費はどうか、また、電気代はどうか、と多くの部分で節約をお願いしながら苦労しているという実態がある。

大学の決算や予算も詳しく御覧いただき、御意見をいただければと思う。(議長)

担当：経営財務室 市野 雄基